

**令和6年度阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会
現地研修会 実施結果の概要**

＜開催日時＞

日時：令和6年12月5日（金）9:30～16:00

場所：〔座学〕川湯ふるさと館 情報交流室 〔現地〕川湯温泉市街地

＜開催目的＞

関係機関で実施しているエゾシカ対策等の情報共有及び意見交換

＜出席者＞

協議会構成員及びオブザーバー 18 名（2 機関、1 団体、7 自治体）

＜講師＞

氏名	所属・職位
立木 靖之	学校法人酪農学園大学 環境共生学類 生物多様性保全研究室 准教授

＜実施内容＞

午前

- （１）趣旨説明
- （２）現地確認

午後

- （１）エゾシカ対策に関する情報共有および意見交換

ファシリテーター

学校法人酪農学園大学 環境共生学類 生物多様性保全研究室 立木准教授

- （２）今後の情報共有の仕組みに関する検討



写真1 現地確認の様子



写真2 エゾシカ対策に関する情報共有の様子

<意見交換で出された意見の概要>

○被害状況に関する情報・意見

- ・エゾシカが街中に出没することはほとんどないが、農業被害は減っていない。
- ・樹皮はぎの被害が3月末あたりから急増した。阿寒湖の北側では、オヒョウを中心に樹皮はぎ被害が目立つ。樹皮はぎの時期が年々早まっていると感じており、今年度は積雪前の秋（9月頃）に北側で樹皮はぎが確認された。
- ・天然林において、これまでエゾシカが角こすりをする樹種は広葉樹が多かったが、最近は大きくなる前のトドマツ等の針葉樹への角こすりがよく見られる。
- ・エゾシカと列車の衝突は年々増えており、釧網線だけで300～400件程、全道で年間3,000件程ある。

○エゾシカの生息状況に関する情報・意見

- ・捕獲数は増加傾向であるが、エゾシカ自体が増えている印象がある。
- ・10月末に実施しているライトセンサスでは、例年120頭程だが今年度は悪天候の中でも200頭以上のエゾシカが確認された。
- ・エゾシカは増えたと感じる。捕獲しているが減っている感覚はない。
- ・狩猟者からもエゾシカが減っているという声は聞かない。周辺から移動してきている印象がある。
- ・囲い罠による捕獲を行っていない仁伏地区の住宅地では、20頭程のエゾシカが常時出没しており、住民からも声が上がっている。
- ・季節に関係なく、川湯-屈斜路湖間の道路沿いはエゾシカが多いと感じる。
- ・ライトセンサスを実施している美留和-コタンの草地では特にエゾシカが増加している。
- ・国立公園だと川湯-美留和間、弟子屈-標茶間はエゾシカが多く、特に茅沼周辺は非常に多い。

○対策状況に関する情報・意見

- ・現在エゾシカの捕獲を担っている狩猟者は高齢化が進んでいるため、その方々の引退後は捕獲頭数が減少すると考えられる。

○その他、エゾシカ対策の支援につながる情報について

- ・その年のエゾシカの移動や増減を予測する情報があるとありがたい。

<情報共有に関する意見>

- ・ 阿寒国立公園周辺のGPS首輪のデータは、市町村界をまたいで季節移動しているエゾシカの捕獲場所選定の根拠となる。
- ・ これまで蓄積しているGPS首輪のデータの情報を自治体が利用しやすくなるような共有の仕組みがあると良いのではないか。
- ・ エゾシカ調査のデータを周辺市町村と共有できれば、捕獲前の事前調査の時間を短縮できる可能性がある。
- ・ 捕獲候補地に関する情報は、狩猟者が捕獲を実施していない場所であれば有益な情報となる。
- ・ 提案のような情報共有の仕組みがあれば、新たな担当者に代わる際の利便性が高い。
- ・ 新規事業をやることが少ないため、年度毎にトピック的に共有できる事業の情報はほとんどない。